

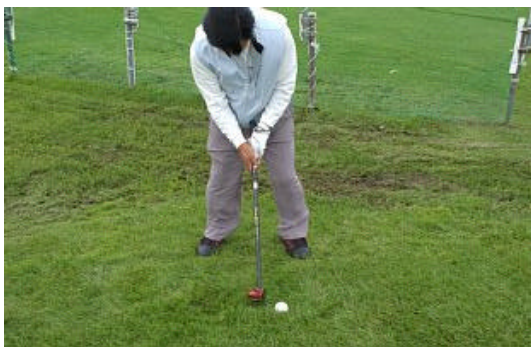
第6巻 状況別打ち方(実戦編)

コースにはいろいろな起伏があります。かならずしも、平らな場所からのショットとはなりません。2打目を打とうとしてボールのそばに行ったら、前上がりだったり、前下がりだったり、右足上がりだったり、右足下がりだったり色々な状況に遭遇します。それぞれの状況により打ち方、注意点は変わってきます。

「目線」「重心バランス」「ボール位置」「どいうボールがやすいか？」など考慮し対処していかなければなりません。

(TVH「パークゴルフの法則」の放映写真、協力 佐々木 由衣子アナ)

1、つま先上りのショット



つま先上がり



グリップの握りの長さは、傾斜の角度により決まる！

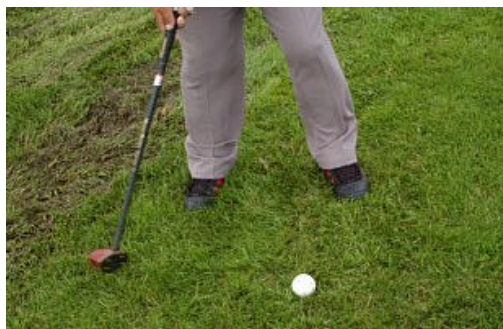
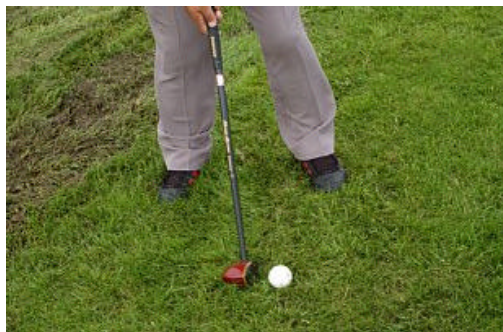
つま先上りのショットは左にボールがひっかかりやすいので身体の向きをやや右方向にして目標をとりましょう。ボール位置の基本は、両足の真ん中です。(状況によりボール位置は変わります)左足側にボールを置くとより右側に打っていかなければなりません。このショットの成功のコツは、グリップ位置です。ボール位置が通常より身体に近くなるため、ボール位置に合わせ**グリップを短**握ります。通常のままのグリップでショットをするとダブル傾向が多くみられます。

2、つま先下りのショット

つま先下りのショットは、右方向にボールが出やすいので体の向きをやや左にして目標を取ります。一番重要なことは、体重をどこに置くかです。下半身をドッシリ構え、ヒザを少し深めにアドレスを取ります。いつもより、スタンス幅を広く取りましょう。これで、ドッシリした構えになったでしょう？下半身は股関節で支える意識が大事です。基本は**ヒザに全体重をのせる**ことです。傾斜地へ立つため、前方へ倒れることを防ぐ必要があるためです。



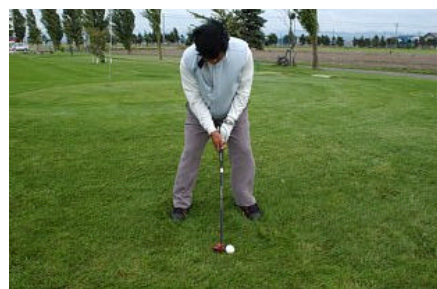
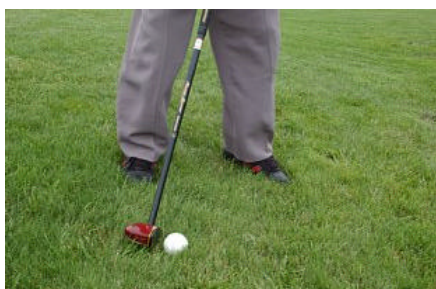
3. 左足上がり(前上がり)のショット



基本的にスタンスは、斜面に沿ってアドレスを取ります。従って左足は高くなります。ボールは身体
の中心に置き、テイクバックは、斜面に沿って始動します。ここで注意しなければならないのは、クラ
ブヘッドを急に上に上げてはいけないということです。斜面に沿ったテイクバックがポイントです。

4. 左足下がり (前下がり) のショット

ボール位置は右足側、オープンスタンス



一番難しいショットになります。構え方は、斜面に沿ってアドレス
を取りますが、ボール位置は右足側になります。ボールの位置
が普段の左足カット線上にあると大きなミスになります。なぜなら、
スイングしたダウンスイングからインパクトを迎えるヘッド軌道に
ボール位置が届かないからです。届かないから「トップ」する。上
体をつっ込んでいく。チョロになる。したがって、**ヒザから下でバラ
ンスをとり、ボール位置は右足側においてバックスイングは傾斜
なりに上げていくのです。右足側にボールを置くかなり右過ぎ
に感じられますのでその分オープンスタンスにします。打ち急がないで、ユッタリスイングと、手打ち
にならないように注意してください。**



打ち急がないで・・・